

地域活性化伝道師プロフィール

| | | | | |
|--------|--|---|------------------------------|-----------------------|
| 分野 | 地域産業・イノベーション・農商工連携 | <input checked="" type="radio"/> | 農・林・水産業 | <input type="radio"/> |
| | 地域医療・福祉・介護、教育 | <input checked="" type="radio"/> | 観光・交流 | |
| | 地域コミュニティ・集落再生 | | 環境 | <input type="radio"/> |
| | 地域交通・情報通信 | | まちづくり | |
| ふりがな | くの みわこ | | | |
| 氏名 | 久野 美和子 | | | |
| 所属 | 名称 役職 | ①電気通信大学 ②日本経営士協会 ①脳・医工学研究センター客員教授/ 総合コミュニケーション科学推進室客員研究員 ②理事(経営支援センター統括)&千葉東葛経営支援センター長 | | |
| 連絡 | 住所 (職場) | 〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘1-5-1 | | |
| | 連絡先 | e-mail | miwako-kuno[アットマーク]nifty.com | |
| | | TEL 090-8778-9643 | FAX - | |
| 連絡方法 | - | | | |
| 略歴 | 静岡県伊豆の出身。千葉大学薬学部(微生物専攻)を卒業後、民間の製薬会社に勤務し、その後、経済産業省に転職。平成9年には経済産業省関東経済産業局情報政策課長、その後、新規事業課長、企画課長、地域経済課長を経て、平成18年には経済産業省関東経済産業局資源エネルギー環境部次長兼産業部担当次長、また、同年から埼玉大学の客員教授。平成19年3月に経済産業省関東経済産業局を退職後、(財)常陽地域研究センターに2年勤務し、平成21年には(株)常陽産業研究所顧問(平成26年3月まで)&埼玉大学特命教授・産学官連携シニアコーディネーター(平成27年3月まで)、平成27年4月～電気通信大学客員教授。平成22年経済産業省キーパーソン、平成22年研究・技術計画学会業務理事・平成23年同業務委員長・平成24年～業務委員&評議員、平成28年1月～研究・イノベーション学会(学会名称変更)「イノベーションフロンティア分科会主査」⇒「プロデュース研究分科会共同主査。平成24年～「つくばサイエンスアカデミー運営会議」委員。地域との関係では、茨城県総合振興計画審議会委員、さいたま市総合振興計画審議会委員、川崎市政策評価審査委員会委員。令和元年から日本経営士協会・経営士、千葉東葛経営支援センター長、令和6年4月～理事(経営支援センター統括)。 | | | |
| 著作・論文等 | 1.「人口知能と社会～2025年の未来予想～」(電通大 AIX(人口知能先端研究センター)メンバーとの共著)、2.「プロデューサーシップのすすめ」新版「プロデューサーシップのすすめ」(研究・イノベーション学会プロデュース研究分科会とNPO法人ZESDAとの共著) | | | |



※ 公開できる情報のみ掲載しています。

※ 依頼・相談等に伴う謝礼等条件につきましては、双方協議の上、決定してください。

※ メールの送信は、[アットマーク]を@に置き換えて行ってください。

| | |
|----------|--|
| 取組概要 | グローバル経済・産業・社会の中で、日本や地域、個別の企業が生き残り、勝ち残っていくためには、大学や研究機関の優れた研究・技術成果を社会的価値に繋げていくことが極めて重要である。また、その方法としては、単独ではなく、多様な知識をもった人材や組織との連携・融合が不可欠の時代となっている。このため、プロデューサーの経験・ノウハウを活かし、1. 埼玉・千葉・茨城・群馬地域～東京(広域)の各大学や研究機関、地方自治体・日本経営士協会等支援機関と連携して、産学官による共同研究開発～新事業創出のしくみづくり、中小企業の活性化について個別支援を行っている。2. 特に超高齢化社会に突入している現在、ライフイノベーション(健康・医療・福祉・介護、食・農等)分野の共同研究～新商品開発・新事業創出が急務であり、特に認知症対策について、重点的な取り組みを行っている。3. 日本の科学・技術の中心である「つくば地域」で、「異分野の人材交流による知の触発」「科学・技術産業イニシアティブ(グローバル・オープンイノベーション・プラットホームを拡充するため、様々な分野の専門家によるセミナーやプロジェクトメイキング活動等)を実施中。4. NPO法人「イノベーション・ネットワーク」を有志で立ち上げ、「若い・科学人材」育成、「健康・食」の拠点作り、プロデュース人材の活動の実践、等に注力している。5. 人と人等のコミュニケーションが益々重要になる中、2022年3月25日「総合コミュニケーション科学学会を、広域地域の産学官民で立上げ、総合コミュニケーション思考の研究と実践。6. 地域活性化伝道師として、1.～3.に関わり、地域や個別企業からの相談に応じてプロデュース活動を行っている。 |
| メッセージ | 日本において、多くの人々が参画出来、環境に配慮しつつ持続的に成長・発展する産業・経済・社会構築と、安全・安心・幸せ感のある社会生活を享受できるようにするため、科学・技術の成果を活用し、人間の心身の健康・増進に尽力するとともに、多くの方々とミッションを共有し、目的に向かっての戦略性を持ち、コミュニケーションを大切にしながら、「繋がり」「組んで」協働し、未来社会創造に貢献したいと思います。 |
| 関連ホームページ | https://www.science-academy.jp/ |
| 活動エリア | 全国 |

※ 公開できる情報のみ掲載しています。

※ 依頼・相談等に伴う謝礼等条件につきましては、双方協議の上、決定してください。

※ メールの送信は、[アットマーク]を@に置き換えて行ってください。